

製品名: VDAC1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19758**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	31kDa

抗原情報

遺伝子名	VDAC1 VDAC1; VDAC; Voltage-dependent anion-selective channel protein 1; VDAC-1; hVDAC1;
別名	Outer mitochondrial membrane protein porin 1; Plasmalemmal porin; Porin 31HL; Porin 31HM
遺伝子 ID	7416.0
SwissProt ID	P21796
免疫原	抗血清はヒト VDAC1 の N 末端領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

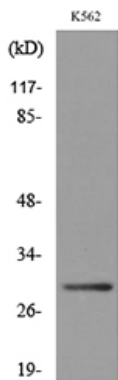
背景

この遺伝子は、ミトコンドリア外膜の主要構成成分である電位依存性陰イオンチャンネルタンパク質をコードしています。コードされているタンパク質は、ミトコンドリア外膜を介した代謝物とイオンの交換を促進し、ミトコンドリア機能を制御する可能性があります。また、このタンパク質は細胞膜にチャンネルを形成し、膜貫通電子伝達に関与している可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。この遺伝子の複数の疑似遺伝子が、1、2、3、6、9、12、X、Y染色体上に存在します。[RefSeq 提供、2010年9月]、ドメイン：主に19本のβストランドからなる膜貫通βバレルで構成されています。らせん状のN末端は孔開口部に折り畳まれ、電位依存性チャンネルの活性に関与しています。機能：ミトコンドリア外膜および細胞膜を貫通するチャンネルを形成します。ミトコンドリア外膜のチャンネルは、親水性の小分子の拡散を可能にし、細胞膜においては細胞容積の調節とアポトーシスに関与する。膜電位が低い、またはゼロの状態が開構造をとり、30~40 mVを超える電位では閉構造をとる。開状態では弱い陰イオン選択性を示すのに対し、閉状態では陽イオン選択性を示す。アポトーシスを誘発するミトコンドリア産物の放出を担う透過性遷移孔複合体 (PTPC) の形成に関与する可能性がある。類似性：真核生物ミトコンドリアポリンファミリーに属する。サブユニット：ヘキソキナーゼと相互作用する (類似性による)。BCL2L1 と相互作用する。インフルエンザ A ウイルス PB1-F2 タンパク質と相互作用する。組織特異性：心臓、肝臓、骨格筋。、

研究分野

カルシウム;パーキンソン病;ハンチントン病;

画像データ



VDAC1 抗体を使用した K562 細胞の溶解液のウエスタン ブロット分析。